

活用目的				地域課題キーワード		分析者			
現状の把握	課題の特定	戦略・施策の検討	効果の検証	【地域経済循環】雇用の場の創出、 【観光】他産業とのシナジー創出		教育機関	地方公共団体	研究機関	民間企業・団体
○	○						○		

データ活用の目的

沖縄県豊見城市における雇用の場の創出と他産業とのシナジー創出のための課題を特定する。

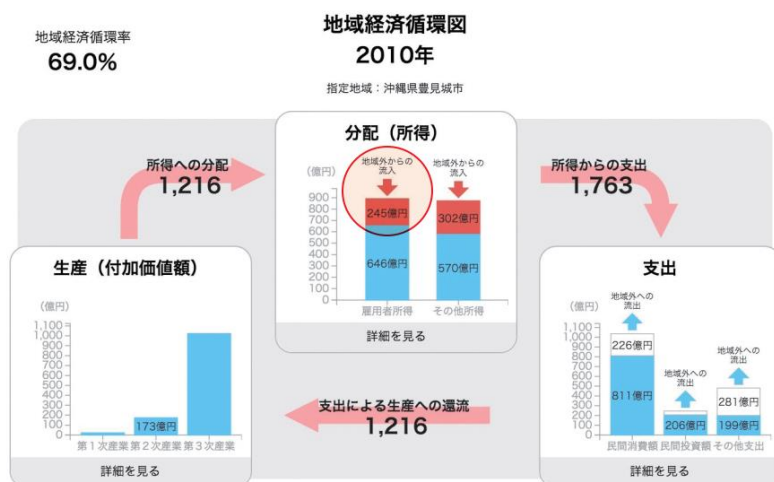
分析内容

- 豊見城市の人口は今後も増加傾向にあり、総人口だけでなく生産年齢人口も増加している。
- 雇用者所得において地域外からの流入額が大きく、市民の多くが市外へと働きに出ている。
- 地域で雇用を多く生み出しているのは医療業、社会保険・社会福祉・介護事業、飲食料品小売業である。
- 医療分野の中核企業である医療機関について、販売先、仕入先等は県内企業との関連が大きい。
- 医療業、事業所数の多い飲食業、今後の成長が期待されるリゾートホテル等の宿泊業が、医療ツーリズムを軸とした連携をすることで、新たな雇用の創出や観光振興、域内消費の増加が期待される。

地域の課題

- 地域内における雇用の場の創出と、雇用による税収や域内消費の増加が必要である。

地域経済循環図の分析



【出典】 [地域経済分析システム\(RESAS\)利活用事例集 沖縄県豊見城市](#)

産業別、従業者数、事業所数、付加価値額の分析



【出典】 [地域経済分析システム\(RESAS\)利活用事例集 沖縄県豊見城市](#)

地域経済分析システム（RESAS） 利活用事例集2016

沖縄県豊見城市

人口動態から見た豊見城市の課題分析/
医療産業を中心とした産業振興に関する分析

活用目的				地域課題キーワード	分析者			
現状の把握	課題の特定	戦略・施策 の検討	効果の検証	【地域経済循環】雇用の場の創出、 【観光】他産業とのシナジー創出	教育機関	地方 公共団体	研究機関	民間企業 ・団体
○	○					○		

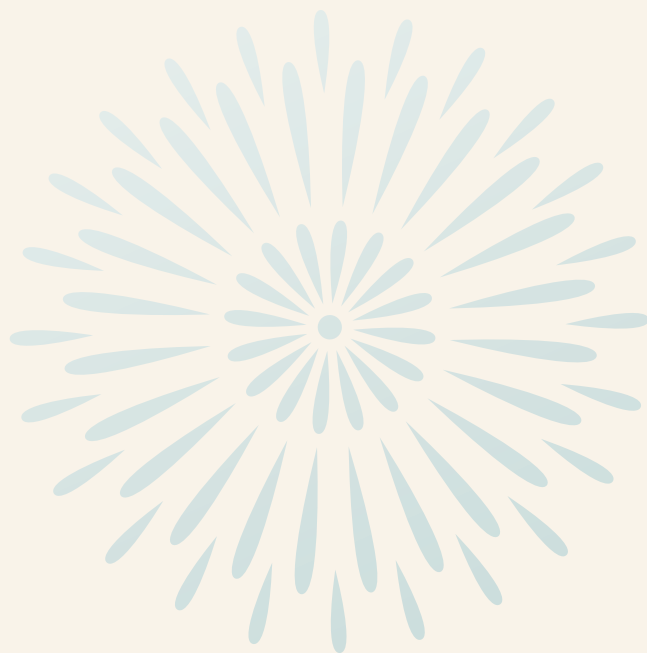
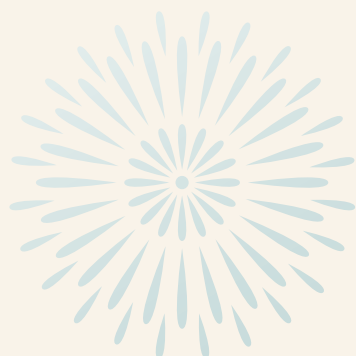


case.18

沖縄県豊見城市

RESASを使った分析例

- 1 人口動態から見た豊見城市の課題分析 P298
- 2 医療産業を中心とした産業振興に関する分析 P302



● 豊見城市の概要

沖縄本島南西部に位置する人口62,623人の市。埋立事業や企業誘致等が成果を収めたことで、人口は増加傾向にあり、東洋経済新報社の「全国都市成長力ランキング」では常に上位に位置している。東京女子医科大学と市内病院の連携により、再生医療の拠点化、医療ツーリズムの展開を図っている。

とみぐすくし
豊見城市は、沖縄本島南西部に位置し、北は那覇市、西は東シナ海、東は南風原町と八重瀬町、南は糸満市と隣接している。豊崎地区の埋立事業の成功や観光関連産業の誘致推進、宜保地区の区画整理事業により、人口や企業数が大幅に増加し、現在もその傾向が続いている。2002年には豊見城村から豊見城市となり、2012年には人口60,000人を突破した。東洋経済新報社がまとめている「全国都市成長力ランキング」では2006年、2010年に全国1位となるなど、成長著しい都市である。

市の西海岸と海中道路で結ばれている周囲約1.5kmの瀬長島は、慶良間諸島に沈む美しい夕日が見ることができ、また、那覇空港を離発着する飛行機を目の前で見ることができる島として知られている。2013年には大型リゾートホテル「琉球温泉 瀬長島ホテル」がオープンしたことで、更に注目を集めている。また、2010年に西海岸の豊崎地区にオープンした「豊崎美らSUNビーチ」は、全長約700mの県内最大級の人工ビーチで、那覇空港から最も近いビーチであることから、那覇発着の際に気軽に立ち寄れるビーチとして観光客の注目を集めている。

■国内における位置



■隣の楽園。瀬長島



■主要データ

面積※1	19.60km ²	世帯数※2	24,133世帯
人口※2	62,623人	事業所数※4	2,137
人口密度※3	3195.1人/km ²	従業者数※5	23,727人

出典／※1 平成27年全国都道府県市区町村別面積調
 ※2 住民基本台帳人口(平成28年1月末時点)
 ※3 上記記載の「人口÷面積」にて算出
 ※4 平成26年経済センサス-基礎調査(事業内容等不詳を含む)
 ※5 平成26年経済センサス-基礎調査(男女別の不詳を含む)

● RESAS活用の背景／活用状況

豊見城市で推進している医療ツーリズムの実現と再生医療の拠点化に向けた、産業集積の状況と中核企業である医療機関の取引関係の分析にRESASを活用している。

豊見城市では漸増傾向にある自然増と、20～30代の若い世代の転入超過による社会増により、人口は増加を続けている。しかし、産業基盤の面でやや弱いところがあり、多くの市民が隣接する那覇市に働きに出ていることが課題となっている。今後、自立した地域経済を確立するためには、産業基盤を強化し、新たな雇用を創出することで、働きやすく暮らしやすい社会づくりを進めることが求められている。現在、基盤産業育成施策として、医療ツーリズムの展開と再生医療の拠点化を進めているが、そのための産業集積の状況と中核企業である医療機関の取引関係の分析にRESASを活用している。

また、2016年4月には、企画情報課内に「統計班」が新設されるなど、今後も一層RESASの活用を進めていく方針であり、市庁舎の移転に伴う周辺地域の開発や観光振興地域である豊崎地区での企業誘致、市内の低・未利用地における企業誘致などにも、RESASを活用して企業と地域のつながりなどを把握しながら施策立案を進める予定である。

● RESASの分析によって得られた内容

RESASを活用したことで、豊見城市の医療産業の集積の状況について確認することができ、医療ツーリズムの実行や再生医療の拠点化に向けた経済効果の検証を行うことができた。

RESASを活用したことで、かねてより課題とされていた雇用の流出が確認された。また、医療ツーリズムを軸とした医療産業の集積及び関連産業の連携が、地域経済の活性化に有効であるという示唆が得られた。

まず、人口分析においては、雇用者所得の市外からの流入や、平日に豊見城市から那覇市への人口流入が多く見られることから、那覇市に多くの人が働きに出ている状況が再確認された。今後は、地域産業の支援や企業誘致による域内産業の強化を図り、具体的な雇用創出施策の検討を更に進めていく予定である。

次に、産業分析においては、豊見城市の中心的な産業である医療業は、従業者数や付加価値額において強みがあり、今後、地域内の飲食店やリゾートホテル等の宿泊業と連携し、医療ツーリズムを軸とした産業振興を推進していくことで、新たな雇用の創出や観光振興、域内消費の増加が期待されることが示唆された。また、医療関連企業の集積により地域経済の活性化が見込まれることが分かったため、再生医療関連企業の誘致に積極的に取り組んでいく予定である。



RESASの活用風景

■RESASによる分析結果をもとに議論する様子



■RESASを活用し、施策立案のためのヒントを探す様子



■観光マップを活用し現状把握に努める様子



人口動態から見た豊見城市の課題分析

●活用の背景

豊見城市の人口は増加傾向にあり、現在62,623人の人口は2020年には約63,000人になると推計され、今後もしばらくは人口の増加が続くものと考えられる¹。更に豊崎地区における住宅地形成の進行や、市庁舎の移転を計画している豊見城交差点付近の中心市街地の形成、那覇空港自動車道や幹線道路の整備に伴う沿線土地利用の高度化などにより、人口推計を上回る可能性もある。しかし、沖縄本島中南部における米軍基地の返還とそれに伴う新たな土地利用が進むことにより、豊見城市の持つ優位性が薄れ、人口推計を下回る可能性もある。

豊見城市是那覇市の南に隣接しているため、ベッドタウンとして人口が増加しているが、自立した地域経済の確立という観点では、域内での雇用が重要となる。そこで、RESASを活用して、人の流れの現状分析を行った。

●分析内容

第18-1-1図は、豊見城市の人口推移を示したものである。これを見ると、豊見城市の人口は今後も増加傾向にあることが分かる。総人口だけでなく生産年齢人口も増加しており、更に年少人口の割合も、全国の12.8%²に比べ、約20%と高い割合を維持していることが特徴である。

第18-1-2図は、豊見城市の人口の自然増減、社会増減の推移を示したものである。これを見ると、豊見城市では自然増減、社会増減ともに増加傾向にあることが分かる。

第18-1-3図は、豊見城市とその近隣市町の合計特殊出生率を示したものである。これを見ると、豊見城市では2003-2007年に1.87、2008-2012年に2.03となっており、伸びが大きいことが分かる。

第18-1-4図は、豊見城市の地域経済循環図を示したものである。これを見ると、雇用者所得において地域外からの流入額が大きいことが分かり、市民の多くが市外へと働きに出ていることが推察される。

第18-1-5図は、那覇市の平日の滞在人口の流入先を示したものである。これを見ると、那覇市の流入先として豊見城市が3位(30,400人)となっており、豊見城市从那覇市へ、通勤等による平日の人口移動があることが推測される。

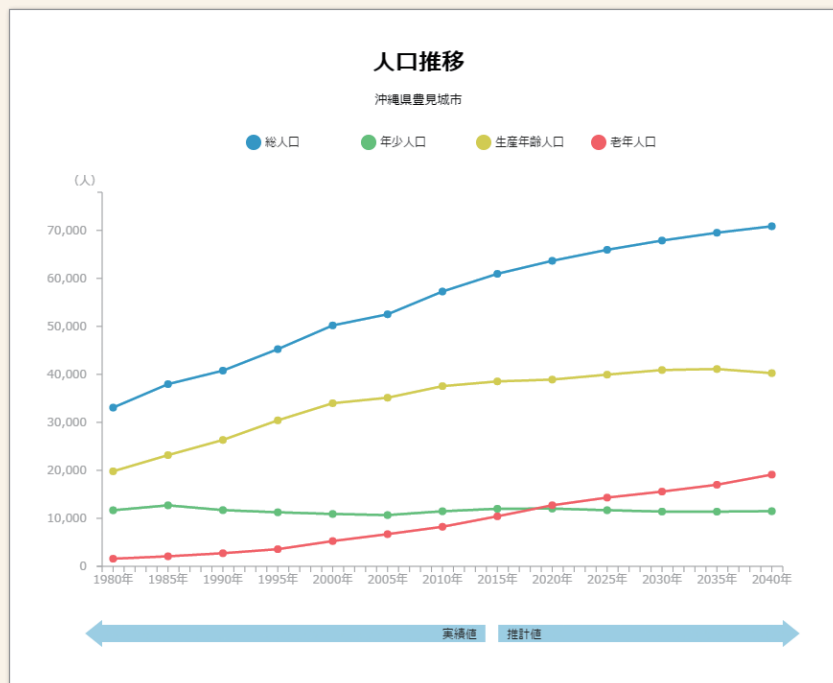
●得られた結論・今後の展開

担当者からは、「雇用者所得の地域外からの流入額が大きいことなど、豊見城市は市外へと働きに出る市民の多いベッドタウン型の都市であることが、RESASの分析によって再確認された。」との発言があった。域内での雇用の場を増やすことで、雇用による税収や域内での消費を増やし、地域経済を活性化する必要があることが改めて認識された。今後は、豊見城市で推進している医療ツーリズムや再生医療の拠点化などを実施することで、域内産業の強化を図っていきたい。

1 資料：第四次豊見城市総合計画

2 資料：総務省「人口推計」(2014年)

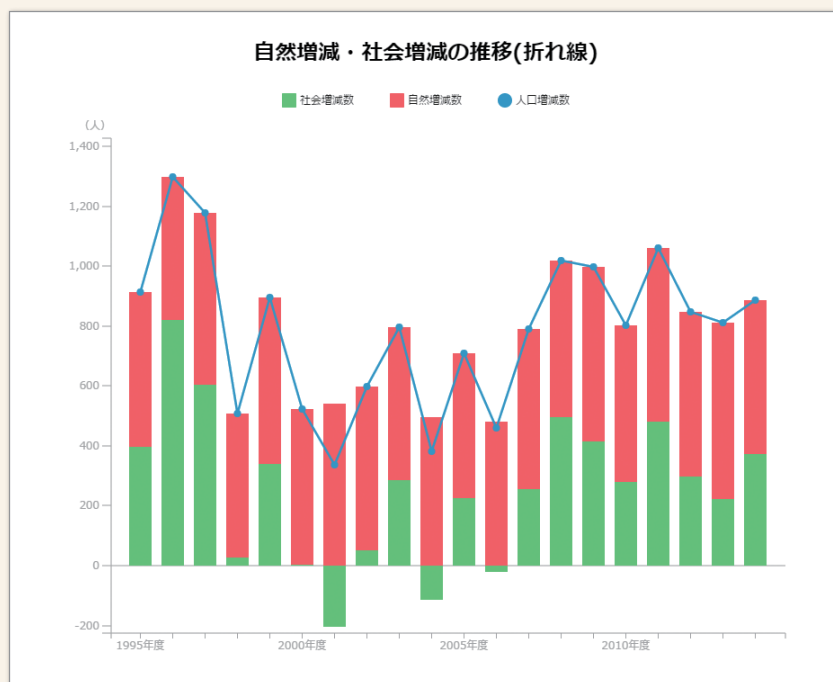
■(第18-1-1図)人口マップ 人口構成 人口推移
[沖縄県豊見城市]



Point!

豊見城市の人口は今後も増加傾向にあることが分かる。総人口だけでなく生産年齢人口も増加しており、更に年少人口の割合も、全国の12.8%に比べ、約20%の高い割合を維持している。

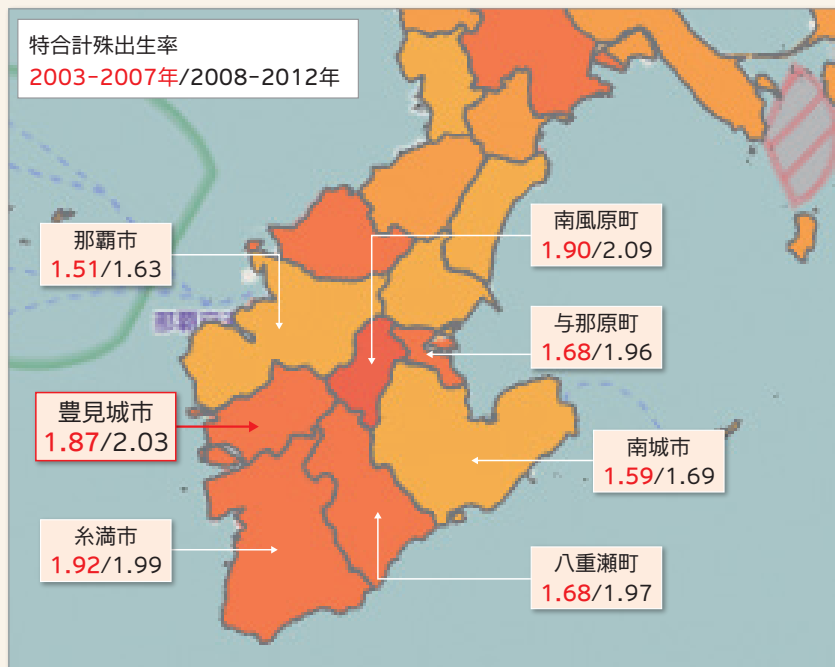
■(第18-1-2図)人口マップ 人口増減 自然増減・社会増減の推移(折れ線)
[沖縄県豊見城市]



Point!

豊見城市では自然増減、社会増減ともに増加傾向にある。

■(第18-1-3図)人口マップ 人口の自然増減
[沖縄県豊見城市]



Point!

豊見城市の合計特殊出生率は
2003-2007年に1.87、
2008-2012年に2.03と
なっており、伸びが大きい。



豊見城市の風景

とよさきちゅ
■県内最大級の人工ビーチ。豊崎美らSUNビーチ



■瀬長島サンセットパーク



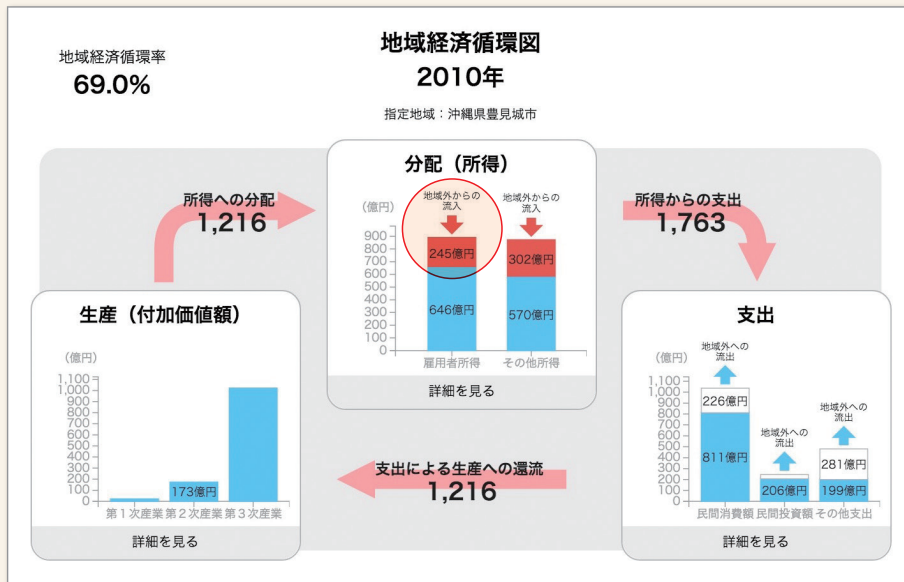
■豊崎ヤシの木



■瀬長島の上空を飛行機が通過する



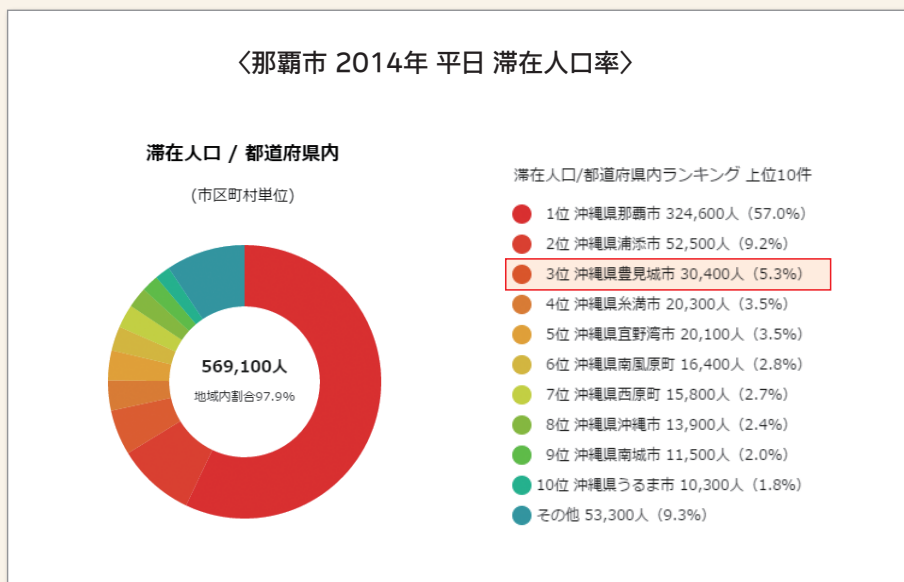
■(第18-1-4図)地域経済循環マップ 地域経済循環図
[沖縄県豊見城市 2010年]



Point!

雇用者所得において
地域外からの流入額が
大きく、市民の多くが
市外へと働きに出ている
ことが推察される。

■(第18-1-5図)観光マップ From-to分析(滞在人口)
[2014年(平日) 沖縄県那覇市]



Point!

那覇市では、豊見城市
からの滞在人口の流入
が3位(30,400人)と
なっており、豊見城市
から那覇市へ、通勤等
による平日の人口移動
があることが分かる。

医療産業を中心とした産業振興に関する分析

●活用の背景

豊見城市では、市の西海岸地区で、那覇空港近くの場合に豊見城中央病院の新築移転が計画されていることを機に、豊見城中央病院が進める先進医療や、病院を中心に集積する医療業やその関連産業に着目して、豊崎地区の医療関連施設を含んだ西海岸の一部を、西海岸地区整備基本構想の中で健康推進の核となる「ヘルスケアゾーン」として位置付けた。また、豊見城中央病院が中心となり市内の他の病院や看護学校生と一緒にあって取り組んだ「医療スタッフ語学人材研修」に対し、沖縄振興特別推進市町村交付金を活用して支援を実施した。これらの施策や取組について、裏付けとなるデータを確認し、今後の方向性について検討するために、RESASを活用して豊見城市の産業分析を行った。

●分析内容

第18-2-1図は、豊見城市の産業別の従業者数(事業所単位)、事業所数(事業所単位)、付加価値額(企業単位)を示したものである。これを見ると、地域で雇用を多く生み出しているのは医療業、社会保険・社会福祉・介護事業、飲食料品小売業であることが分かる。事業所数では、飲食店、その他の小売業、洗濯・理容・美容・浴場業などが多い。また、付加価値額では、医療業が突出して多く、次に社会保険・社会福祉・介護事業が多い。

第18-2-2図は、豊見城市の産業別の生産額(総額)を示したものである。これを見ると、産業別に最も生産額(総額)が多いのは、サービス業であり、次いで運輸・通信業となっていることが分かる。これらの産業は移輸入入収支もプラスになっており、豊見城市において「稼ぐ産業」であるといえる。

第18-2-3図は、豊見城市の医療、福祉における付加価値額の構成比を示したものである。これを見ると、医療業の割合が高く(79.6%)、沖縄県や全国と比べても高い割合を占めていることが分かる。

第18-2-4図は、豊見城市の宿泊業、飲食サービス業における付加価値額の構成比を示したものである。これを見ると、飲食店、持ち帰り・配達飲食サービス業の占める割合が高いことが分かる³。

第18-2-5図は、豊見城市における医療分野の中核企業である医療機関について、販売先、仕入先等を示したものである。これを見ると、県内企業との関連が大きいが分かり、中核の病院の売上が増加することで、関連する企業の多くは売上高が増加することが期待できる。

3 現在、豊見城市には、2009年にオープンした「ホテルグランビューガーデン沖縄」、2013年にオープンした「琉球温泉 瀬長島ホテル」の2軒のホテルが立地するが、これらのデータは2012年の構成比には反映されていないものと考えられる。

医療産業を中心とした産業振興に関する分析

●得られた結論・今後の展開

担当者からは、「RESASの分析により、医療業や飲食店、宿泊業など市内に集積する産業間の連携を図り、医療ツーリズムを軸に産業振興していくことが有効であると確認できた。」との発言があった。具体的には、雇用や付加価値額の高い医療業、事業所数の多い飲食業、今後の成長が期待されるリゾートホテル等の宿泊業が、医療ツーリズムを軸とした連携をすることで、新たな雇用の創出や観光振興、域内消費の増加が期待されることが分かった。更に、生産額(総額)では、サービス業に次いで運輸・通信業が高い値を示しているが、これは那覇空港に隣接し、また、那覇空港までの主要な幹線道路網の整備が進んでいる市内に貸切バス会社が多く進出しているためであり、市民のみならず県内外から訪れる観光客のアクセス向上にも寄与するなど、医療ツーリズムに向けたインフラも整っている。

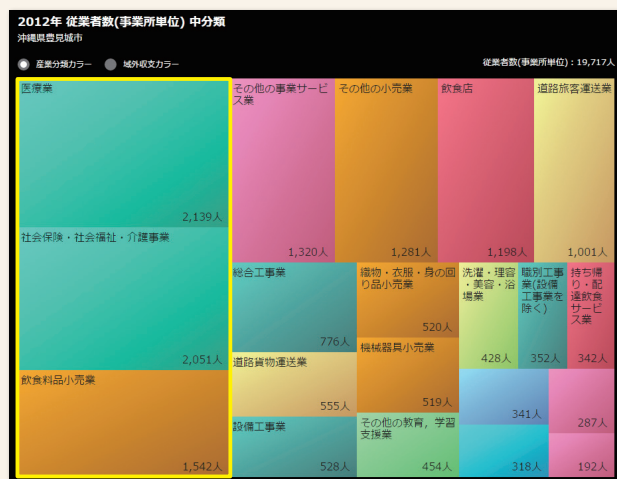
また、「RESASを活用して市内にある医療機関を分析したところ、取引先の多くは県内企業であり、各医療機関の売上が増加することで、取引先企業の売上も増加することが期待できることが新たに分かった。」との発言もあり、医療関連企業の集積により地域経済の活性化が見込まれることが分かった。

今後も、医療産業の集積を図って関連企業の誘致を積極的に実施し、誘致企業の選定の際には、地域とのつながりや波及効果を確認するなど、RESASを積極的に活用していく方針である。

2 RESASを使った分析例

■(第18-2-1図)産業マップ 全産業花火図 中分類 産業分類カラー
[沖縄県豊見城市 2012年]

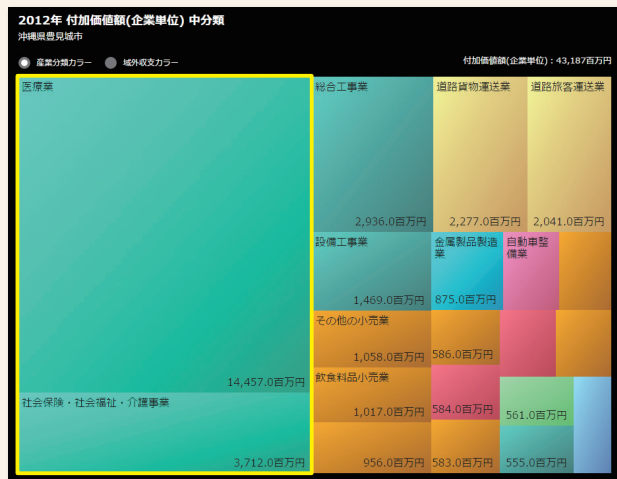
従業者数(事業所単位)



事業所数(事業所単位)



付加価値額（企業単位）



Point!

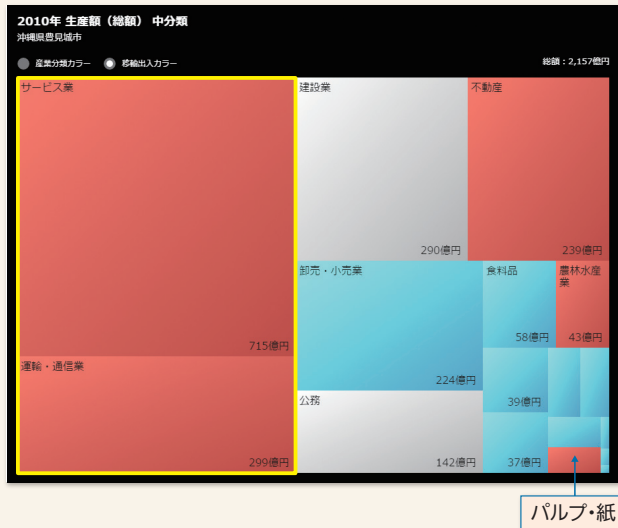
地域で雇用を多く生み出しているのは医療業、
社会保険・社会福祉・介護事業、飲食料品小売
業である。

事業所数は飲食店、その他の小売業、洗濯・理容・美容・浴場業などが多い。

付加価値額は医療業が突出して多く、次に社会保険・社会福祉・介護事業が多い。

2 RESASを使った分析例 | 医療産業を中心とした産業振興に関する分析

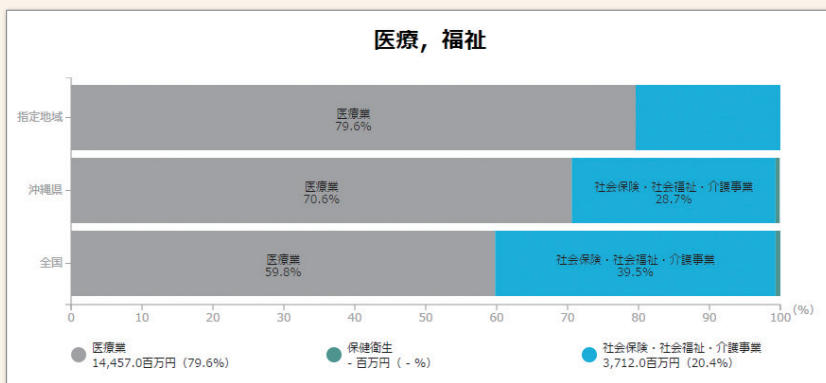
■(第18-2-2図)地域経済循環マップ 生産分析 生産額(総額) 中分類 移輸出入カラー [沖縄県豊見城市 2010年]



Point!

最も生産額(総額)が多いのはサービス業であり、次いで運輸・通信業である。
これらの産業は移輸出入収支もプラスになっており、「稼ぐ産業」であるといえる。

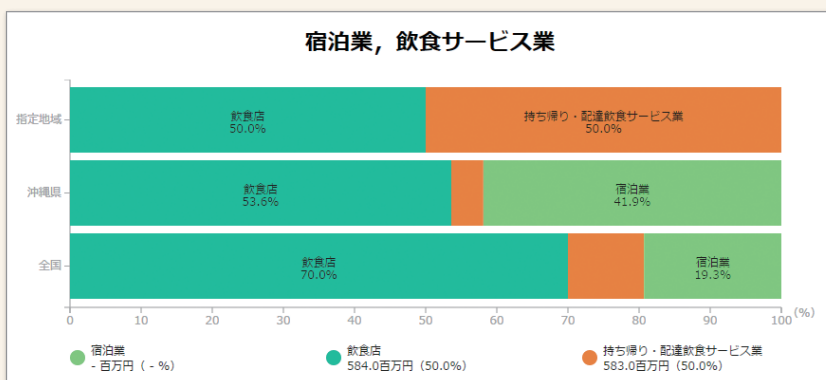
■(第18-2-3図)産業マップ 全産業花火図 付加価値額(企業単位) 中分類 割合順 [沖縄県豊見城市 医療,福祉 2012年]



Point!

医療, 福祉では、医療業の付加価値額構成比が高く(79.6%)、沖縄県や全国と比較しても高い割合を占めている。

■(第18-2-4図)産業マップ 全産業花火図 付加価値額(企業単位) 中分類 割合順 [沖縄県豊見城市 宿泊業,飲食サービス業 2012年]



Point!

宿泊業, 飲食サービス業では、飲食店、持ち帰り・配達飲食サービス業の付加価値額構成比が高い。2009年、2013年にオープンしたリゾートホテルについては数値に反映されていないと考えられる。

豊見城中央病院の再生医療拠点化に伴う医療ツーリズムの展開

豊見城中央病院は、2015年、沖縄県における再生医療実施体制の本格化を目指して、東京女子医科大学が開発した「細胞シート⁴工学」の再生医療への臨床応用とその普及体制の構築を目的とし、包括的な友好連携協定を締結した。5年間の協定期間を通して、豊見城中央病院は再生医療の拠点化を図り、世界各国から患者を受け入れる医療ツーリズムの展開を視野に入れている。これまでに、豊見城中央病院が主体となって、市内にある28のクリニックとの連携、透析治療のニーズが高いとされる台湾への現地調査、外国人患者受入のための医療関係者を対象とした語学教育などを実施している。

豊見城市の豊崎地区には、沖縄県内で唯一のアウトレットモールがあることから、アジアを中心とした海外からの観光客も多い。また、那覇空港は、沖縄県のリーディング産業である観光・リゾート産業だけでなく、農産物や生活物資の輸送など様々な方法で活用されており、沖縄県の玄関口として、国内外を結ぶハブ空港としてとても重要な位置にある。現在整備が進められている第二滑走路の供用が開始されることで、アジアを中心にたくさんの観光客が見込まれることから、那覇空港の滑走路増設に合わせて医療ツーリズムの展開を広げていくことを目指す。

豊見城市は沖縄振興特別推進市町村交付金を活用して補助金を交付し、医療ツーリズムの展開を支援している。

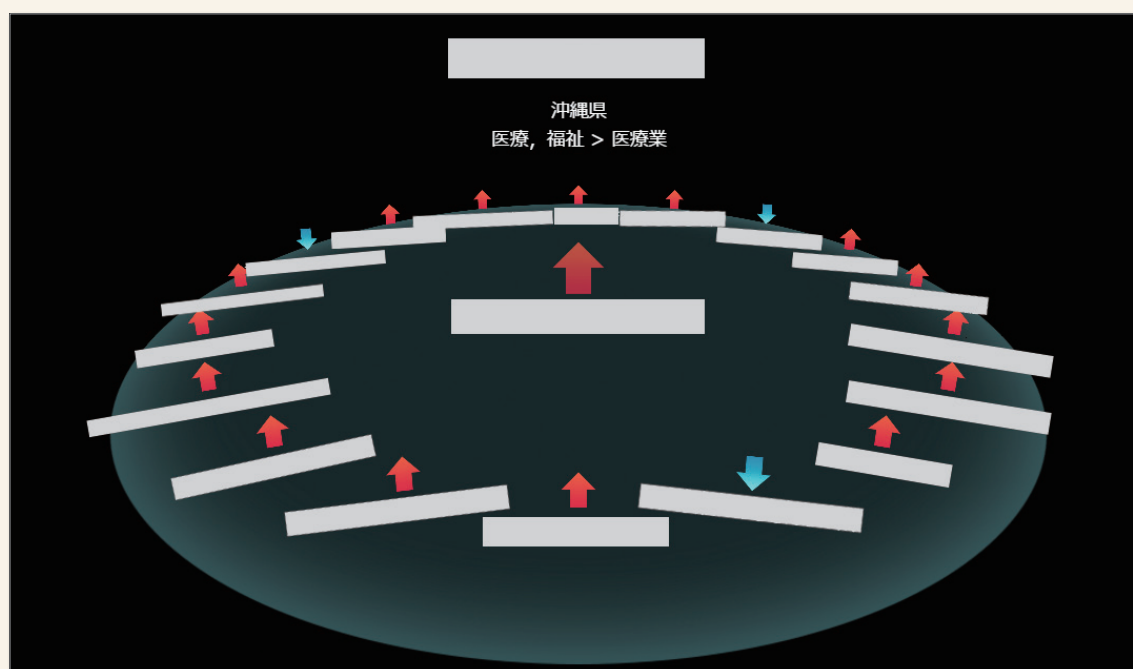
4 患者自身の細胞を培養してシート状にしたもの。患部に貼り、生着させることによって、これまで治療の難しかった様々な病気で症状の改善・治癒を期待できるとされ、再生医療の1つとして注目されている。心臓や軟骨、角膜などへの治療に応用されている。

■(第18-2-5図)産業マップ 企業別花火図

[個別企業情報 医療法人A 域内外販売・仕入]



[個別企業情報 医療法人A 仕入先企業 売上高の状況を見る]



Point!

地域中核企業である医療機関の取引先の多くは県内企業であり、該当機関の売上が増加することで、その取引先企業の多くは売上高が増加する傾向にある。

協 力

豊見城市 企画部 企画情報課 098-850-0246
豊見城市 企画部 商工観光課 098-850-5876

[2016年2月9日 取材]

